財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

2005年度 年次報告書

CAREが設立されたのは1945年11月16日、今から60年前のことです。その間、CAREはヨーロッパにおける第二次世界大戦の被災者を支援するアメリカの団体から、世界中で33万人に支えられ70以上の途上国で人道・開発支援を行う組織へと成長してきました。

日本におけるCAREも、2005年7月から名称を「ケア・ジャパン」から「ケア・インターナショナル ジャパン」に変更し、新たな体制で活動を開始しました。これに合わせ、組織としてのイメージも一新してまいりましたが、この年次報告書が新デザインの元で発行された第一号です。

世界における貧困や社会的不公正と闘うCAREの活動に対して、さまざまな形で協力をしてくださりました皆様に、紙面をお借りし、心よりお礼申し上げますとともに、今後ともご支援をお願い申し上げます。

(財)ケア・インターナショナル ジャパン
事務局長　野口 千歳

CARE International

60年の経験と実績をもち、世界中の支援活動をリードする国際協力NGOとして、現在、世界70カ国の途上国や紛争地域に住む約4,500万人に対して、年間800億円に上る支援事業を行っています。収入向上、教育、保健・衛生、農業、環境など多岐にわたる分野での活動を通して、貧困や社会的不公正の根本的な解決に取り組み、最も困難な立場にある人々の自立を支援します。また、紛争や災害時には、その国際ネットワークを生かし、世界各地の被災地にて瞬時に緊急支援活動を開始、復興へと結びつけていきます。CAREは世界33万人の人々に支えられ、また、その高度な専門知識と経験をもった約13,000人のスタッフによる活動は、国連をはじめとする各種専門機関や支援国の人々から高い評価と信頼を得ています。ケア・インターナショナル ジャパンは、CAREのメンバーとして、主にアジアにおいてそのミッションを達成すべく、活動を行っています。

care®

互いにまっすぐ伸びていく手が形作る輪。
グローバルな視点で地球規模の問題に力を合わせて立ち向かう、CAREの活動の本質をイメージするものです。それは、一体であるだけでなく、多様性を認めるものでもあります。さまざまな環境に生きる世界中の人々が、共通の目標のもとに1つになったときに生み出される大きなチカラ。CAREのロゴにはそんな意味が込められています。

2005年度活動概要
（2005年7月～2006年6月）

海外事業

2005年

7月～
■前年度からの9事業を継続して実施

10月
■「パキスタン地震災害緊急支援」を開始

12月
■「移動教育事業（タイ）」終了

2006年

2月
■「カントー橋建設にかかるHIV/AIDS予防事業（ベトナム）」を開始

4月
■「スマトラ沖津波復興支援 学校における子どもの心のケアプロジェクト」の活動の一つとして、「フォト・タペストリー・アクティビティ」を開始

5月
■「プランテーション居住者の生活改善事業（スリランカ）」終了

6月
■「スマトラ沖津波復興支援 国内避難民のための水と衛生プロジェクト（インドネシア）」終了
■「マドゥーラ避難民の生活復興支援プロジェクト（インドネシア）」終了
■「レインボー事業（カンボジア）」終了
■「パキスタン地震災害緊急支援」終了
■「フォト・タペストリー・アクティビティ」終了

国内活動

2005年

7月
■団体名称を「ケア・ジャパン」から「ケア・インターナショナル ジャパン」に変更
■ホームページをリニューアル

9月
■ケア・インターナショナル ジャパン定例理事会・評議員会

10月
■パキスタン地震緊急募金の協力よびかけ
■グローバルフェスタJAPAN2005に参加
■スリランカ・フェスティバルに参加

11月
■フェスティバルラティノ・アメリカーノに参加

12月
■ケア・サポーターズクラブ大分主催による講演会
■スマトラ沖津波1周年企画　チャリティー写真展を開催

2006年

2月
■ケア フレンズ岡山主催によるチャリティー・コンサート
■スリランカ人現地スタッフ来日。報告会を開催

3月
■ケア フレンズ・東京主催による講演会

4月
■ケア・サポーターズクラブ熊本発足
■アジア婦人友好会主催「アジアの祭典」に参加
■ジャパン・プラットフォームに加入

5月
■フランスのル・アーブルにてCARE60周年記念式典
■タイ・フェスティバル 2006 に参加

6月
■ケア フレンズ札幌主催による講演会
■ジャワ地震緊急募金の協力よびかけ
■ケア・インターナショナル ジャパン定例理事会・評議員会
■「プランテーション居住者の生活改善事業（スリランカ）」事業終了報告会を開催
■ケア・インターナショナル ジャパンのCMが全国の劇場にて上映開始

海外事業

本年度は、タイ、カンボジア、インドネシア、スリランカ、アフガニスタンにおける前年度からの9事業を継続するとともに、新たにベトナムとパキスタンにおいて2事業を開始し、合計11のプロジェクトを実施しました。また、ジャパン・プラットフォームに加入し、緊急支援体制を強化しました。

特に今年は、企業とのタイアップの面で大きな成果を上げることができました。2004 年末に発生したスマトラ沖津波を機に接点をもつようになった企業からの支援により、スリランカおよびインドネシアにおいて緊急のみならず復興の過程までを支援することができました。また、協賛企業のコア・ビジネスをいかしたパートナーシップ形態のもと、ベトナムの建設現場やインドネシアのコーヒー産地において事業を展開しました。

国内活動

本年度は昨年に引き続き、ケア・インターナショナルジャパンの支援組織であるケア フレンズとケア・サポーターズクラブとの関係強化をはかりました。また、大分に続く2つ目のケア・サポーターズクラブが熊本で発足しました。

募金活動では、例年通りの夏と冬の募金に加え、春にも募金協力を行いました。また、パキスタン地震、ジャワ地震などが相次ぎ、緊急募金を実施し、多くの方からご寄付をいただきました。

本年度の国内における大きなイベントとしては、スマトラ沖津波1周年企画として、チャリティー写真展を開催しました。プロの写真家の協力による写真展のほか、津波復興支援事業の報告会やチャリティワインパーティーなどを行い、約180名の方に足を運んでいただきました。

広報活動では、7月に団体名称が変更されたことにより、ホームページをはじめ、各種広報資料のリニューアルを行い、新しいイメージとしてのケア・インターナショナル ジャパンをアピールしました。

終了事業

対象地域：タイ ウボンラチャタニ県4郡
対 象 者：20の小学校生徒（特に上級生）と中学校生徒、教師、村人など
実施期間：2003年1月～2005年12月（3年間）
主支援者：ケア フレンズ・東京、ケア フレンズ岡山

タイ

移動教育事業

この事業では、遠隔地の教育環境に恵まれない 20 の学校を図書や教材を積んだ車で訪問し、子どもたちが中心となった参加型の総合的学習を通して、子どもたちが主体的に考え、自ら問題解決できる力を養うことを目的として活動を行いました。

本年度は、最終年度として「夢を紡ぐ読書推進イベント」を開催し、約1000人が参加しました。3年間の活動を通して、学校図書と読書感想文の導入、各村・コミュニティの課題についての調査、解決に向けての提案と実践など、具体的な形での活動の成果が現れました。移動教育車が巡回して展開する学校での活動のみでなく、コミュニティの中で子どもたちが活動する機会をつくり、村人の参加を促進することで、効果が増大しました。今後、この活動は、現地事務所に引き継がれ、さらに発展していくことが期待されます。

対象地域：スリランカ 中央州およびウバ州にある15の紅茶農園
対 象 者：紅茶農園居住者約9000世帯
実施期間：2003年5月～2006年5月(3年間)
主支援者：国際協力機構（JICA）

スリランカ

プランテーション居住者の生活改善事業

この事業は、イギリス植民地時代に労働力としてインドから連れてこられた農園労働者とその家族を対象としています。地域社会から隔離され、劣悪な環境のもとで生活する農園居住者の社会生活改善を目的として活動を行いました。

最終年度の本年度は、対象の15のすべての農園において、農園居住者たちの社会サービスへのアクセスを可能にするインフォメーション・センターをオープンしました。これに伴い、キャンペーンを実施することで広く住民に認知されました。また、出生登録証明書発行などの巡回サービスが行われた際には、多数の住民が参加しました。さらに、地方行政や金融機関などの農園外部の社会・行政サービス提供団体との連携強化の結果、センターにおける郵便サービスや保健・栄養に関する情報提供が可能になりました。

この事業は 2006 年 5 月で終了しましたが、長期的な取り組みが必要であるため、継続事業が予定されています（2006 年 7 月に、「紅茶農園内住民組織の運営能力向上プロジェクト」を開始しました）。

© Harsha De Silva

対象地域：インドネシア アチェ州バンダアチェおよびアチェブサール
対 象 者：スマトラ沖津波被災により仮設住宅および避難所にて生活する国内避難民約20,000人
実施期間：2005年3月～2006年6月（16カ月）
主支援者：企業、一般寄付

インドネシア

スマトラ沖津波復興支援

国内避難民のための水と衛生プロジェクト

この事業では、2004年12月に発生したスマトラ沖地震による津波被害により、仮設住宅や避難所で生活する国内避難民が、下痢などの病気に悩まされずに健康な生活を送ることができるよう、活動を行いました。

本年度は、46箇所の避難所において、タンカーにより1日平均17万リットルの水を配りました。また、1日に3～5箇所の仮設住宅および避難所にて、排泄トラックによる仮設トイレに貯まった廃棄物の除去作業を実施しました。安全な水の供給と汚物処理という、被災後の緊急支援として最も必要性の高い活動を実施したことで、被災者の生活を保全し、下痢などの疾病のまん延予防に貢献することができました。また、看板の設置を通した水と衛生に関する情報普及や水場やトイレの衛生管理を実施する住民組織の結成なども行いました。さらに、事業終了にあたり、井戸や簡易水道などから長期的かつ経済的な水資源を得るための情報普及や現地の上下水道サービス提供団体への活動の引き継ぎを行いました。

© Harsha De Silva

対象地域：インドネシア 東ジャワ州（マドゥーラ島）および中央カリマンタン州（サンピット県）
対 象 者：民族対立により避難民となった 約10,000 世帯のマドゥーラ人
実施期間：2005年6月～ 2006年6月（13カ月間）
主支援者：スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社

インドネシア

マドゥーラ避難民の生活復興支援プロジェクト

この事業では、2001年に発生した民族衝突により避難民となったマドゥーラ人を対象として、水と衛生、保健、食糧などの基本的ニーズを満たすことにより、生活の保全をはかることを目的として活動を行いました。

本年度は、子どもの栄養状態の調査や高い死亡率の原因分析を目的として、栄養失調状態の子どもの状況、生活環境、食事習慣などに関する世帯調査を実施しました。また、この結果に基づき、貧困世帯でも取り入れやすい栄養改善メニューなどを策定して、母親を対象とした約 50 回の栄養講習会を実施しました。機能していなかった約100 の保健サービス提供施設については、機能回復を行うことで、成長測定や予防接種の実施が可能になりました。さらに、上記の活動と並行して、これらの活動を支えるコミュニティの保健ボランティアに対するトレーニングを行いました。

対象地域：カンボジア カンダール州ルックダイク地区、日本国内
対 象 者：カンボジアの小中学校生、日本の小中学校生ほか
実施期間：2000 年 7 月～ 2006 年6月（6年間）
主支援者：日本の小中学校、ECC、Think the Earth プロジェクト、株式会社東食など

カンボジア

レインボー事業

このプロジェクトでは、カンボジア対象地区の教育環境改善（貧困家庭の教育費負担の軽減、学習意欲を高める授業作り、美術の教師育成）と、カンボジア・日本両国の相互理解および国際交流の促進をはかることを目的として活動を行いました。

本年度は、日本の幼稚園や学校 84 校および 32 団体と個人の方々からの文房具・画材・作品を、カンボジアの27校の小中学校へ寄贈しました。本年度は最終年度にあたるため、カンボジアの対象校 3 校において、現地の教師によるアートレッスンを実施し、活動の定着度を確認しました。この6年間、カンボジアの対象地区では、教師が美術教育のワークショップに参加することで、これまであまり重視されていなかった美術教育に対する取り組みがなされました。また、これらの作品を日本の小中学校に贈ることを通して、カンボジアと日本の国際交流と相互理解のきっかけをもたらすことができました。

継 続 事 業

© Harsha De Silva

対象地域：カンボジア プレイベン州ピムチョア地区
対 象 者：退学の可能性が高い小学校高学年女子と就学していない6歳～18歳の女子約1400名およびコミュニティ住民
実施期間：2004年2 月～ 2006年12月（2年10カ月間）
主支援者：国際協力機構（JICA）

カンボジア

女子教育事業　サマキクマールⅡ

この事業では、貧困や住民の女子教育への理解不足が原因で女子の就学率、進学率が低い地域において、女子が教育を受ける機会が増えるよう、家庭・コミュニティ・学校の環境を改善していくことを目的としています。

本年度は、教育の権利、重要性を伝える意識向上ワークショップを実施し、学校においては高学年の生徒1182名、コミュニティでは 750 名（女性 652名）が参加しました。貧困家庭の女子を支援する奨学制度では、2005/2006年の奨学生として282 名が選ばれました。コミュニティにおける基礎識字については、識字教室の登録者 325 名のうち 216 名が講座を修了し（修了率は66%）、さらに、修了者 216 名のうち 190 名が教育省の試験に合格して認定証を受け取りました。また、教師の能力向上のため、23 名の識字教師がコンサルタント、CARE スタッフ、州・地区教育局職員の連携により行われたトレーニングを受けました。

対象地域：カンボジア カンダール州ルックダイク地区
対 象 者：女子教育奨学制度事業で高校に進学した奨学生
実施期間：2004 年 10 月～ 2007 年9月（3年間）
主支援者：ケア フレンズ岡山、ケア フレンズ・東京

カンボジア

コミュニティのための人材育成事業（女子教育奨学制度事業Ⅱ）

この事業は、女子教育奨学制度事業(2002 年より2 年間実施)において中学課程を修了し、高校進学の資格を得た奨学生たちが、将来、コミュニティの発展に貢献できるよう、そのために必要な知識・技能を身につけることを目的としています。

本年度は、62 名の奨学生に対する経費補助と補習授業などの提供を継続するとともに、奨学生・親・地区奨学制度運営委員会メンバーを対象として、ジェンダーの観点を入れた HIV/AIDS 防止ワークショップを実施しました。また、奨学生に対するコミュニティ活動に必要な技能訓練として、昨年度から行っているホームエコノミクス実習（食品加工・手工芸）に加え、養豚についての学習を追加して実施しました。2007 年 9 月には、奨学生が高校課程を修了する予定です。

対象地域：アフガニスタン 中央部および南東部の遠隔農村地域
対 象 者：中央部および南東部 9州の遠隔農村地域の教員、コミュニティの人々と生徒 3038名および地方教育行政機関
実施期間：2004年7月～ 2006 年5月（2年間）
＊今後の支援継続について検討中。
主支援者：ケア フレンズ岡山（山陽放送株式会社）

アフガニスタン

コミュニティ運営による初等教育プロジェクト

教育システムが世界で最も劣悪であるといわれるアフガニスタンにおいて実施しているこの事業では、教師、コミュニティ、地方教育行政機関のキャパシティを高め、コミュニティによって運営される学校での活動を通して、遠隔地域の生徒が質の高い初等教育を受けられるようにすることを目的としています。

ケア・インターナショナルが実施する全事業のうち、ケア・インターナショナル ジャパンが今年度行った活動には、151 名の教師を対象とした現職研修・教育法研修・再教育研修や115 名の村教育委員会メンバーに対するコミュニティ・スクール管理運営方法についての研修の実施が挙げられます。この事業では、ケア・インターナショナルが大規模に実施している事業の一部として、能力向上のための研修の実施や教材配布という重要な部分を支援することにより、事業全体に効果が波及するという成果が得られました。この事業で運営が確立されたコミュニティ・スクールは、順次、政府管轄の学校に移管されてきていますが、アフガニスタンにおける教育分野の協力のニーズは依然として高く、来年度以降の事業実施についてはドナーの意向を踏まえ、検討していく予定です。

対象地域：スリランカ 南部州ハンバントタ県アンバラントタおよびティッサマハラマ
対 象 者：アンバラントタ、ティッサマハラマの学校4校の津波で心理的・精神的な傷を抱える子ども約5000人と学校コミュニティ（教師や親）約3500人
実施期間：2005年4月～ 2007 年 3月（2 年間）
主支援者：日産自動車株式会社、一般寄付、学校

スリランカ

スマトラ沖津波復興支援
学校における子どもの心のケアプロジェクト

この事業では、2004年12月に発生したスマトラ沖地震による津波において被災した子どもたちの心の傷が癒され、子どもたちが心身ともに健全な生活を送ることができることを目的として活動を行っています。

本年度は、昨年度に実施した調査に基づいて活動を実施しました。教師や学校職員、親、上級生などを対象として、“Positive Thinking”を通した、被災による心理的・精神的なダメージを乗り越えるためのワークショップや改善に向けて活動するためのリーダーシップ・ワークショップなどを開催しました。また、各学校で、それぞれのニーズに基づき、活動計画を策定した結果、学校施設の軽微な改修、楽器の購入、課外活動などのさまざまな試みがなされました。また、参加校間の相互訪問を通して、経験が共有されました。

新規事業

対象地域：ベトナム カントー県カントー市
対 象 者：カントー橋建設に関わる移動建設労働者と周辺コミュニティの人々
実施期間：2006 年 2 月～ 2008 年 1 月（2 年間）
主支援者：大成建設・鹿島建設・新日本製鐵 JV

ベトナム

カントー橋建設にかかる HIV/AIDS予防事業

この事業は、円借款による大規模インフラ建設プロジェクトに伴う日本の建設会社からの委託事業です。建設事業に伴い、建設現場に一時的に滞在する各地からの移動労働者を対象として性産業が活性化する状況の中、現場労働者のみでなく、周辺コミュニティも含めて、性感染症(STD)およびHIV/AIDS感染のリスクを減少させることを目的として活動を行います。

本年度は、事業開始に伴い、建設会社のスタッフ・地域行政官・地元マスメディア関係者に対するオリエンテーションやワークショップ、ヘルスワーカーを対象としたカウンセリング導入研修などを実施しました。また、性産業従事者を中心とする教育グループの形成と教育者の養成も行いました。さらに、コンドームの配布や相談受付箱の設置などに加えて、HIV/AIDSおよびSTD感染防止・治療に関する情報提供や企業と地域間のHIV/AIDS感染防止・治療・ケアサービスにおける連携向上のための研修を実施しました。

対象地域：パキスタン 北西辺境州
対 象 者：北西辺境州アライ渓谷の村落の被災者 235世帯（1645人）および 868人の生徒
実施期間：2005年10月～ 2006年6月（9カ月間）
主支援者：一般寄付

パキスタン

パキスタン地震災害緊急支援（2006年6月にて終了）

この事業では、2005 年 10 月に発生したパキスタン地震の被災者に対する緊急ニーズを満たすことを目的として活動を行いました。

この事業では、緊急支援活動として、以下のものを配布しました。

①緊急避難生活用テント	235 張
②学校用テント	32 張
③現地活動用車両	1 台

2006 年 3 月末までに皆様から寄せられたご寄付により、被災者が震災直後に最も必要としていた物資を供給することができました。今後は、現地のケア・パキスタンが、緊急支援活動に引き続き、復興支援事業を行っていきます。

対象地域：日本の小中学校およびスリランカ南部ハンバントタ州の小中学校
対 象 者：「学校における子どもの心のケアプロジェクト」に参加する日本2校の生徒とスリランカ3校の生徒
実施期間：2006年 4～ 6月（2カ月間）
主支援者：企業、一般寄付

スリランカ

スマトラ沖津波復興支援

学校における子どもの心のケアプロジェクト フォト・タペストリー・アクティビティ（2006年6月にて終了）

この事業では、スマトラ沖津波復興支援として行っている「学校における子どもの心のケアプロジェクト」のアクティビティの一つとして、日本およびスリランカの児童・生徒間の相互理解を促進し、異なった価値観や文化を尊重する気持ちを育むことを目的として活動を行いました。

日本の学校 2 校、スリランカの学校 3 校との間で、両国の児童・生徒による自国の文化と価値観に関する学習を行いました。さらに、その学習をもとに、自分たちで撮った写真を模造紙に貼ってフォト・タペストリーを作成し、日本とスリランカの学校間で交換することで、相互理解と交流をはかりました。

Story from Cambodia

CAREの活動によって考え方を変えた両親は、勉強をやめさせるのではなく、よく学ぶよう励ましてくれるようになった

私が初めてサマキクマールに関わったのは、ワークショップへの参加を通してです。そのCAREのワークショップでは、「貧しい生徒への支援と女子教育の重要性」について話し合いました。また、私は「結婚する若者」と題した物語で役を演じました。物語は、教育を受けていない少女が16歳になり、無理やり結婚させられるというものです。彼女は、夫から暴力を受け、離婚し、未亡人になります。現実を考えてみると、早期結婚は好ましくないと思いました。なぜなら、知識がなく計算ができず、夫たちからばかにされるからです。私は、ワークショップ参加者たちが女子教育の重要性についてCAREから学んだ後、自分の親へ説明することを期待しています。

CAREの活動に参加して得られた最も重要な変化は、「両親の考えの変化」です。以前は、両親が「おまえは女だから、勉強は低学年までで十分だよ」と言うので、学びたいとは思いませんでした。しかし、CAREが女子教育の重要性を説明し、貧しい少女たちを支援したことで、両親が変わり始めました。これまでの考えを捨て、私が毎日、学校に通うよう応援し、励ましてくれるようになったのです。また、この変化は、私が両親へ説明したことの成果でもあります。「先生がもっと勉強するよう、私を応援しているの。だから、勉強をやめさせないで。女の子が教育を受けることを無駄だと思わないで。もし知識があれば、仕事だって簡単に探せるわ」。私がこう説明すると、両親は理解してくれました。

両親の考えが変わったことは、私の将来にとても重要です。なぜなら、私には教師になりたいという夢があるからです。たとえお金があっても、知識がなければ教師にはなれません。以前、両親が勉強をやめるよう言ったとき、私は納得しました。なぜなら、貧しかったからです。悲しかったですが、どうすることもできませんでした。しかし、CAREの活動によって考え方を変えた両親は、勉強をやめさせるのではなく、よく学ぶよう励ましてくれています。

知識があれば、将来、良い仕事を見つけることができます。そのお給料で家族を助けることができます。この変化によって、高校の教師になるという夢にも近づいています。両親の考えが変わり、好きなだけ勉強できる環境になったことで、今の私は学ぶことに対してとても意欲的です。一生懸命勉強するようになり、授業も休まなくなりました。成績も上がり、クラスで上位にいます。両親の考えが変わったことで、私はよく学ぶことができ、以前よりももっと多くのことを考えることができるようになったのです。

「女子教育事業 サマキクマール」では、カンボジアの女子教育に対する意識の低い貧困地域において、経済的に貧しい家庭の女子に対して奨学制度を通して就学支援を行っているほか、退学せざるを得なかった女子あるいは就学したことがない女子に対しては、識字教室など学校外での教育の場を提供しています。また、親や教師、地域の人々などを対象として、女子教育に対する理解・関心を高めることを目的とした意識向上のためのワークショップを実施しています。この事業の詳しい内容については、本誌5ページ目をご覧ください。

Afghanistan

A DAY in the Life of a COPE Student

コミュニティ運営による学校の生徒、Najiaのある一日

「学校と教育は、子どもたちに大きな影響を及ぼします。1冊の本は、子どもにとって指針となるもの。社会で生きていくためにはどうしたらいいのか、清潔にしておくことや年配の人に敬意を表わすにはどのようにするのかなどを教えてくれます。私は、学校が、平和と幸運と成功を地域にもたらすと思います」
（アフガニスタン Logar州のある生徒の父親）

アフガニスタン Logar州のコミュニティによって運営される学校に通うNajiaは、現在、6年生。この学校は、CAREのCOPEプロジェクトによって支えられています。以下は、Najiaのある一日の様子です。

学校で勉強するNajia。授業は1日5時間目まで

友だちとバレーボールをして遊ぶNajia

私の家はOni Soflaという村にあります。学校はすぐ近く。毎朝、早起きをして、学校に行く支度をするの。7時半から朝礼があって、ときどき私が何か話すこともあるわ。授業が始まるのは 8 時から。今、私は6年生で、宗教、算数、科学、歴史などを勉強しています。私の好きな教科は歴史です。10時には、休み時間があります。校庭がなくて狭いので、上級生の女の子たちは外では遊ばないけれど、私は友だちとバレーボールをします。好きなスポーツは、バレーボールとサッカーです。

お昼に家に帰ってからは、家のお手伝い。お母さんとお皿を洗いながら、今日、学校で習ってきたことを家族に話すの。近所の人とも仲良しなので、衛生のことなど私が学校で習った役立つことについて教えてあげるのよ。隣りの Fauzia さんには、外国にいる息子さんからの手紙を読んであげたりすることもあるわ。

家では毎日、学校で習ったことを復習しています。分からないことがあると、お姉ちゃんが教えてくれるの。私がお兄ちゃんやお姉ちゃんたちに教えることだってあるのよ。村の人たちを助けるために、一生懸命勉強して、将来はお医者さんになりたいと思っています。

私も他の生徒たちもみんな、CARE にとっても感謝しています。なぜなら、私たちを助けてくれたから。CARE は、私たちが勉強できるように、本や文房具や学校の設備など必要なものをすべて用意してくれました。それに、先生たちにもトレーニングをしてくれるの。だから、授業もとってもためになる内容なのよ。

CARE がアフガニスタンにおいて実施する「コミュニティ運営による初等教育プロジェクト（COPE プロジェクト）」では、遠隔地域の生徒が質の高い初等教育を受けられるように、コミュニティによって運営される学校での活動を支援しています。この事業の詳しい内容については、本誌6ページ目をご覧ください。

CARE World

ケア・インターナショナル ジャパン 賛助正会員 柳井 良子

ケア物資といえばまず、隣組の配給でミートの缶詰が到来したときを思い出す。家族5人で食べきれなかったような気がする。こんなにおいしくて実質的なものがあり余っていて、ボーンとくれるような豊かな、懐の深い国と、戦争したのか。目からうろこだった。

昨日までの敵、日本人を救うために、日本風に言えば「非国民」呼ばわりされながら奔走した関係者のことは、当時も報道されたのだろうが記憶にない。缶詰の後ろの送り手の顔は見えなかったし、考える余裕もなかった。残ったのは、「食べ物の恨み」の逆の、ちょっとくやしいけれど、やはり「感謝」だ。

「雑司ヶ谷の教会に来てるGIが、とてもきれいな英語を話すから」と、英語の先生が学校に連れてきたブラウンさんを思い出す。大柄な血色のいい青年で、いかにも善意のアメリカ人。基督者だから話はまじめだったが、皆で賛美歌や「谷間の教会」など歌って楽しかった。こんな人たちの顔が、缶詰の向こうにあったのかもしれないと、ふと思う。

カンボジア「女子教育事業サマキクマールⅡ」GET教師 Khem Pheakdey

私は2002年に教員養成学校を卒業し、Prek Krabao 小学校で教師として働き始めました。働き始めて数カ月経った頃、教育省とともに働く女子教育チーム（GET：Girls Education Team）に参加する教師選考のために、CAREが私の地域を訪問しました。GETは4人の教師からなり、私はその中の一人として選出されました。

GETの役割と責務は、地域と女子のために、学校内外で関連する活動を推進し、ワークショップを行うというものです。CAREとともに働いて、私自身の振る舞いや態度、話し方、働き方や、地域開発における計画の仕方などが変化しました。サマキクマールプロジェクトは、コミュニティ・ワーキング・グループのメンバーと一緒にワークショップに参加したり、運営することを通して、考える方法やコミュニケーションの方法、話し合いを円滑に進める方法などを教えてくれました。

私の目標は、私が得た経験を地域や学校の人々と分け合い、子どもたちにとってよい教師になることです。そして、もう一つあります。祖国と社会と私自身の発展のために、地元の団体であれ、国際的な団体であれ、NGOで働きたいということです。

ケア・インターナショナル ジャパン ボランティアスタッフ 示野 充彦

「ご協力ありがとうございました! 完成です!」2006年6月18日、スタッフからかけていただいたお言葉です。私はケア・インターナショナル ジャパンの WEB サイトトップページをリニューアルしました。

私がボランティアを始めたきっかけは父の影響でした。父が日本語講師のボランティアを始め、私に海外の方と交流した経験を熱っぽく語るのです。私は知らない世界に好奇心をくすぐられ、間もなくボランティア団体を探していました。できるなら勉強中であるWEB制作で役に立ちたいと思っていたところ、WEB 制作ボランティアを募集していた CAREとご縁があった次第です。

実際にボランティアをしてみると「ご協力ありがとうございました」という言葉が心地よくうれしいものです。利害関係のない澄んだ感謝の言葉であることに新鮮味を感じています。父が熱く語っていた理由はこれだったのかな、と想像しながらボランティア活動を楽しんでいます。

ケア・インターナショナル ジャパン ボランティア スタッフ　中西 淳子

数年前、失職を期にボランティア活動に参加したいと思い、CAREの事務所を訪ねました。しかし全く別業種にいた私には、国際貢献とはどんな活動なのか、自分にできることは何だろうかと新入社員のような気持ちでした。そんな私をCARE のスタッフの方々は、温かく迎い入れてくれました。私ができる時間内で、できることを任せてくれ、またCAREの活動を知る機会にも参加させてくださいました。スタッフの情熱もそうですが、それを支える支援者の方々、他のボランティアの方々の活動にも新鮮な感動を覚えています。

CARE を通じて少し自分の考えが変わってきました。以前は身の程知らずにも「国際貢献したい!」と思っていましたが、実際私ができることはほんのわずかです。今は、スタッフの方々の重労働を少しでも減らすことが私の喜びとなりました。これからも微力ながら協力していきたいと思っています。CAREの活動に期待しています。

ケア・スリランカ ヌワラエリヤ事務所「プランテーション居住者の生活改善事業(TEAプロジェクト)」プロジェクト・コーディネーター　M.J.M. Irfan

CAREは、スリランカが平和な国になるための支援活動のための非常に鮮明なビジョンがあり、CARE のコミュニティへのアプローチは私のように国のために何らかの活動をしようと決意している人間にとって、とても魅力的なものです。オフィスで働くCAREスタッフの能力は大変高く、とても熱心なので、私たちは CARE で働くことに心地よさを感じています。私は自分のチームの仲間たちと一緒に働いたり、お昼におしゃべりしたりすることが本当に楽しいです。

私は将来、スリランカ社会を動かしていくことのできる優れた人材になりたいと思います。CAREはこのために学ぶ機会をたくさん提供してくれ、社会をどのように変えていくかを学び、人々と共に学ぶことを支援してくれています。現在の事務所での私の仕事は、スリランカの主な民族である、シンハラ、タミル、ムスリムと互いに活動していくことが必要です。一連の活動を通して、スリランカにおける3つの社会に共通する問題にどのように取り組んでいくかを学んでいます。

ケア・インターナショナル ジャパン ボランティア スタッフ　Laura Thomas

私は、ちょうど今、東京から母国(であるアメリカ)に帰ってきたところです。東京では、ケア・インターナショナル ジャパンのすばらしい人たちと一緒に活動しました。私は、英文校正やフランス語から英語への翻訳などの部分でお手伝いしていました。“Watashi no nihongo wa totemo sukoshi, dakedo CARE no hito wa totemo yasashii desu.” 私は、ケア・インターナショナル ジャパンのみんなに会うことが本当に楽しかったです。

実は、私が CARE で活動したのは、これが初めてではありません。西アフリカにあるギニアの小さな村に住んでいたことがあり、そのときに CARE の活動に関わったことがあります。CARE はすばらしい団体です。皆さんに、東京で開催される CARE のイベントや報告会などに行ってほしいと思います。CARE によって、世界にすばらしい体験がもたらされていると思います。

スリランカ「プランテーション居住者の生活改善事業 (TEA プロジェクト)」Bearwell 農園マネージャー　A.M.H. Attapatu

(CARE の)プロジェクトを計画し、実行していくやり方がとてもよかった。CARE のスタッフは、彼らが何を行っていくのか、どのような方法でそれを行っていくのかを明確に私たちに説明してくれた。それに続く活動や関係する打ち合わせなども、(私たち)経営者側との調整がきちんとなされ、計画された。政府とは異なり、CARE のスタッフは、活動を計画し、進めていく上で、とてもプロフェッショナルだ。TEA プロジェクトは、私たち農園経営者にとってよい事業である。

2005年度（2005年 7月1日～2006年6月30日）

一般会計収支計算書

ケア・インターナショナル ジャパンではケア・インターナショナルの会計年度に合わせ、毎年 7月より翌年6月までを1年度として捉えています。

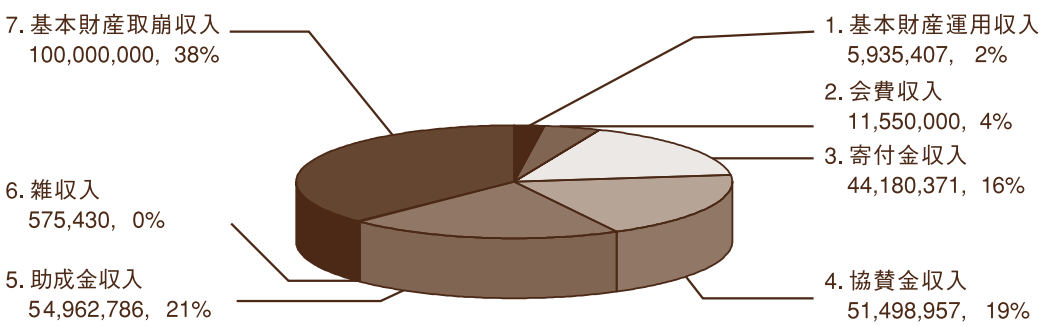
【単位:円】

収入の部

	2005年度	2004年度
1．基本財産運用収入	5,935,407	12,797,165
2．会費収入	11,550,000	12,465,000
法人賛助会費	3,410,000	4,110,000
個人賛助会費	2,687,000	2,983,000
支援組織会費	5,453,000	5,372,000
3．寄付金収入	44,180,371	26,776,587
一般寄付金・募金	10,689,621	8,165,000
書き損じハガキ（※１）		920,144
特定寄付（津波緊急支援含む）	16,740,750	14,691,443
篤志家	16,750,000	3,000,000
4．協賛金収入	51,498,957	19,901,542
コミュニティのための人材育成事業（カンボジア）〔ケア フレンズ岡山、ケア フレンズ・東京〕	2,202,206	1,876,106
移動教育事業（タイ）〔ケア フレンズ・東京、ケア フレンズ岡山〕	120,000	1,888,000
スマトラ沖津波復興支援		
学校における子どもの心のケアプロジェクト（スリランカ）〔企業・一般〕	8,482,976	2,600,000
国内避難民のための水と衛生プロジェクト（インドネシア）〔企業・一般〕	16,508,639	8,849,000
コミュニティ運営による初等教育プロジェクト（アフガニスタン）〔ケアフレンズ岡山〕	1,000,000	767,657
マドゥーラ避難民の生活復興支援プロジェクト（インドネシア）〔企業〕	6,000,000	0
カントー橋建設にかかるHIV/AIDS 予防事業（ベトナム）〔企業〕	4,022,587	0
地震災害緊急支援（パキスタン）〔一般〕	9,959,470	0
レインボー事業（カンボジア）〔基金、書き損じハガキ〕	3,203,079	3,920,779
5．助成金収入	54,962,786	40,438,423
女子教育事業　サマキクマールII（カンボジア）〔国際協力機構〕	18,089,186	13,968,973
プランテーション居住者の生活改善事業（スリランカ）〔国際協力機構〕	36,873,600	26,469,450
6．雑収入	575,430	195,361
7．基本財産取崩収入	100,000,000	110,000,000
当期収入合計　（A）	268,702,951	222,574,078
前期繰越収支差額	19,791,280	15,870,724
収入合計　（B）	288,494,231	238,444,802

※１　2005年度はレインボー事業に計上。

当期収入内訳



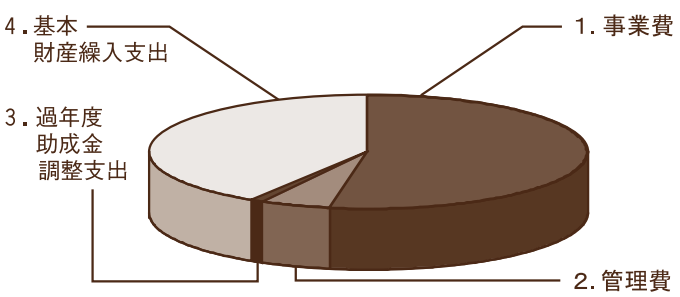
【単位:円】

支出の部

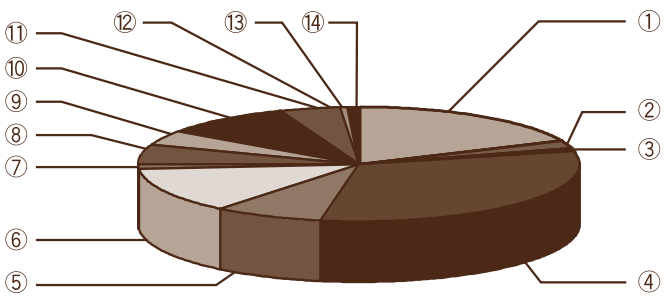
	2005年度	2004年度
1．事業費	141,024,114	94,588,271
a） 国際開発協力事業	110,114,658	71,261,997
①女子教育事業　サマキクマールII（カンボジア）	20,275,274	14,867,621
②コミュニティのための人材育成事業（女子教育奨学制度事業II）（カンボジア）	2,468,624	3,769,649
③移動教育事業（タイ）	811,456	3,992,372
④プランテーション居住者の生活改善事業（スリランカ）	34,541,493	28,440,815
スマトラ沖津波復興支援事業		
⑤学校における子どもの心のケアプロジェクト（スリランカ）	8,914,479	2,205,300
⑥国内避難民のための水と衛生プロジェクト（インドネシア）	14,121,671	7,622,955
⑦コミュニティ運営による初等教育プロジェクト（アフガニスタン）	1,317,648	701,550
⑧マドゥーラ避難民の生活復興支援プロジェクト（インドネシア）	6,282,982	0
⑨カントー橋建設にかかるHIV/AIDS予防事業（ベトナム）	4,665,344	0
⑩地震災害緊急支援（パキスタン）	10,331,793	0
⑪レインボー事業（カンボジア）	4,711,327	6,148,521
⑫スマトラ沖津波復興支援事業　フォト・タペストリー・アクティビティ（スリランカ）	196,513	0
⑬新規開拓事業	707,364	1,689,577
⑭その他	768,690	11,310
スマトラ沖津波緊急支援（インドネシア、スリランカ、タイ）	0	1,442,868
女子教育奨学制度事業（カンボジア）	0	369,459
b） マーケティング	27,768,182	21,893,053
ファンドレージング	14,216,053	14,004,192
広報	13,552,129	7,888,861
c） 国際会議参加費	3,141,274	1,433,221
2．管理費	14,588,049	21,765,251
a） 人件費	8,979,272	7,972,223
b） 一般管理費　※2	5,289,189	13,548,680
c） CI負担金	319,588	244,348
3．過年度助成金調整支出	2,258,200	0
4．基本財産繰入支出	110,000,000	102,300,000
当期支出合計　（C）	267,870,363	218,653,522
当期収支差　（A）ー（C）	832,588	3,920,556
次期繰越収支差額　（B）ー（C）	20,623,868	19,791,280

※2　2004 年度は基本財産保全（債券デフォルトによる売却損失）による費用増加

当期支出内訳



当期事業費内訳

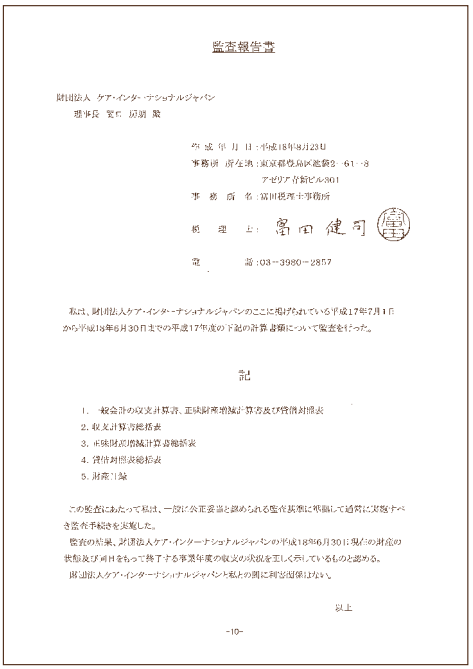


貸借対照表

【単位:円】

	2005年度	2004年度
Ⅰ．資産の部		
1．流動資産		
現金預金	40,276,567	33,616,894
有価証券	15,110,494	5,456,552
未収会費	350,000	0
未収入金	12,373,000	0
流動資産合計	68,110,061	39,073,446
2．固定資産		
基本財産合計	133,900,000	123,900,000
その他の固定資産	3,500,000	3,500,000
固定資産合計	137,400,000	127,400,000
資産合計	205,510,061	166,473,446
Ⅱ．負債の部		
1．流動負債		
未払費用	18,131,117	619,505
預り金	424,448	841,387
引当金	28,930,628	17,821,274
流動負債合計	47,486,193	19,282,166
負債合計	47,486,193	19,282,166
Ⅲ．正味財産の部		
正味財産	158,023,868	147,191,280
（内基本金）	（133,900,000）	（123,900,000）
（内当期正味財産増減額）	（10,832,588）	（△3,864,969）
負債及び正味財産合計	205,510,061	166,473,446

監査報告書



監査報告書

財団法人 ケア・インターナショナルジャパン
理事長 髙橋 徹

平成 年 月 日：平成18年8月23日
事務所 所在地：東京都豊島区巣鴨3-61-8
アゼリア青新ビル301
事務所名：富田税理士事務所
税理士：富田健司
電話：03-3980-2857

私は、財団法人ケア・インターナショナルジャパンのここに掲げられている平成17年7月1日から平成18年6月30日までの平成17年度の下記の計算書類について監査を行った。

記

1. 一般会計の収支計算書、正味財産増減計算書及び貸借対照表
2. 収支計算書総括表
3. 正味財産増減計算書総括表
4. 貸借対照表総括表
5. 附属明細

この監査にあたって私は、一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠して通常に実施すべき監査手続きを実施した。
監査の結果、財団法人ケア・インターナショナルジャパンの平成18年6月30日現在での財産の状態及び同日をもって終了する事業年度の収支の状況を正しく示しているものと認める。
財団法人ケア・インターナショナルジャパンと私との間に利害関係はない。

以上

-10-

ケア・インターナショナル ジャパンの使命

ビジョン：
ケア・インターナショナル ジャパンは、誰もが互いを尊重し、人間らしく生きる平和な世界を目指しています

ミッション：
ケア・インターナショナル ジャパンは、コミュニティの人々と共に貧困を生み出す根源の解決に取り組みます

【2006年6月30日現在】

法人会員企業

有限会社 秋山商事
株式会社 大塚商会 城北営業部
財団法人 国際協力推進協会
神社本廳
セイコーインスツル株式会社
株式会社 損害保険ジャパン
東京海上日動火災保険株式会社
東京電力株式会社
株式会社 東芝
有限会社 西片企画
日産自動車株式会社
財団法人 日本国際協力センター
株式会社 VSN
株式会社 ベンチャーセーフネット
株式会社 丸和
ミマスクリーンケア株式会社

支援グループ

ケア フレンズ岡山
ケア フレンズ・東京
ケア フレンズ札幌
ケア・サポーターズクラブ大分
ケア・サポーターズクラブ熊本

【2006年6月30日現在】

財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン役員・評議員

名誉会長・理事	和久本 芳彦	財団法人 国際文化交流推進協会 理事長
理事長	関口 房朗	株式会社 VSN 代表取締役会長
常務理事	野口 千歳	財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン事務局長
理事	安倍 洋子	ケア フレンズ・東京 会長
	数原 孝憲	国連監視検証査察委員会委員、外務省参与（元アイルランド国大使）
	加藤 睦子	ケア フレンズ岡山 名誉会長
	黒川 千万喜	元トヨタ財団 常務理事
	鈴木 照通	株式会社 ベンチャーセーフネット 代表取締役社長
	服部 純一	セイコーインスツル株式会社 代表取締役会長
監事	原 禮之助	株式会社 はやまキャピタル 代表取締役
	山本 卓弘	学校法人 三室戸学園 理事
評議員	阿部 光博	ミマスクリーンケア株式会社 代表取締役社長
	稲川 素子	株式会社 稲川素子事務所 代表
	植田 兼司	弁護士
	岡部 正彦	日本通運株式会社 代表取締役会長
	河野 洋子	カランマス・スジャトラ株式会社 取締役
	山東 昭子	参議院議員、元科学技術庁長官
	高橋 衛	ドイツ証券株式会社 常勤監査役、株式会社 パレスホテル 顧問
	田村 滋美	東京電力株式会社 取締役会長
	堤 功一	元ハンガリー国大使
	ピーターD.ピーダーセン	株式会社 イースクエア 代表取締役社長
	横田 笑	元理事長夫人
	渡辺 光子	M＆Mスタジオ 代表取締役
法律顧問	植田 兼司（弁護士）	
会計顧問	富田 健司（税理士）	

Photo Credit　front cover : © Harsha De Silva

財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン
〒171-0032 東京都豊島区雑司ヶ谷2-3-2 TEL：03-5950-1335 FAX：03-5950-1375
E-mail : info@careintjp.org http://www.careintjp.org

財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン 2005年度年次報告書
2006年 11月発行
発行 財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン ※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。